



一般社団法人 都城国際交流協会会報

MIA NEWS

ミア ニュース

～協会からのお知らせ・インフォメーション～

◇令和7年度第1回総会を開催します

2025年5月28日、令和7年度、第1回一般社団法人都城国際交流協会総会を開催します。会員の皆様のご出席をお願いいたします。

正会員の皆さまには、御案内を同封しております。

日 時： 令和7年5月28日(水) 14:00～15:30

場 所： 都城市役所北別館 2階 共有会議室

*総会終了後、都城市国際交流員による国紹介（モンゴル、アメリカ、中国）を予定しています。

※出席のご連絡は、（一社）都城国際交流協会まで電話、メール、文書でお願いします。

お問合せ： （一社）都城国際交流協会(MIA)まで電話、E-mailでお願いします。

電話 0986-23-2295

E-mail mia@btvm.ne.jp

～マラソンとホームスティin成都～

MIA会員 岩松妙美

2024年10月25日から29日までマラソン大会参加のために中国成都市を訪れました。短い滞在期間でしたが、沢山の出会いと思い出が出来ましたのでご紹介します。私の中国訪問は6回目でしたが、今回の旅では成都マラソンの抽選のエントリーやビザの申請等の諸問題が次々と発生し、一時は訪問を諦めた程でした。しかし成都ゆかりの中国の方々や一緒に行った三浦さんの尽力で無事出発にこぎ着けました。が、しかし福岡空港の出発カウンターには飛行機が一時間遅れることと「当社の飛行機の遅れにより、お客様が被る損害について一切責任は負えません。」の表記が...いや～な予感のはずかし、飛行機は遅れに遅れて私たちが乗り継ぎ先の上海空港に着いた時、成都行きの飛行機は飛び去った後でした。考えてみてください。語学力が無い身で、外国の夜の空港に残された気分...

幸いにも同じ飛行機に乗り遅れた上海在住である日本人のTさんご夫婦と出会い、この後の便で成都に向かうと聞いて、私たちのチケットも取って貰ったのですが、追加料金を一人34000円請求されたのです。この時、それまで使用不能だったWi-Fiのアンテナが立ったので、スマホの翻訳アプリから「貴社の飛行機の遅れで、私たちは成都行きの飛行機に乗れませんでした。」と訴えたところ、追加料金は無料になりました。駄目元でも言うてみるものです。Tさんご夫婦にはチケット再取得から李さんへの時間変更連絡まで取っていただき、本当にお世話になりました。

無事に成都に着き、ホスト先の李さんとも会えました。が、次の日にも私にとっての難問が待ち受けていました。マラソン大会以上に気がかりなのが三浦さんからの「我々で、一度は食事を作りましょう。」の提案でした。食通の中国の方に何を作ればよいのか...色々アドバイスを受け「私絶対失敗しないので！」の

ノリで某社バーモントカレーに決定。お土産にも沢山買い込み、いざ李家の冷蔵庫を開けてみると、扉には中国語表記の某社バーモントカレーが二箱も有ります。急きょ他メーカーのルーに変更して作り始めたのですが、李家では野菜と肉では包丁を使い分けており、中華の鉄人が使うような大きな四角い肉切り包丁にビビって肉が切れず、蚊取り線香を乗せたようなコンロの火加減に戸惑い、カレーは煮詰めすぎ、塩昆布をちぎったキャベツに混ぜるだけのサラダも味見を繰り返すうちにしょっぱくなり...トホホな仕上がり...対する三浦さんは、李家の冷蔵庫に生の松茸が存在するとの事前情報をもとに、〇〇園の顆粒松茸風味のお吸い物と、小分けしたミリンと薄口醤油を持参。松茸がたっぷり入った炊き込みご飯に、薄切り松茸が姿のままにプカプカ浮いた松茸スープ!!これだけでもウルトラCなのに、日ごろから作り慣れたポテトサラダと、皆が大好きな鶏のから揚げで注目と人気をかせがりました。





李彪さん宅での食事会

出発前に「中国は日本よりキャッシュレスが10年進んでいる」とさんざん脅かされたのですが、内心「大げさな～」と思っていました。しかし空港を一步出たらソコは「QRコードの世界」タクシーはスマホで近くを走る全タクシーが表示されて予約します。レストランに入ればQRカードがテーブルに置かれており、読み込むとメニューがスマホに表示されます。街中あちこちに黄色や黄緑に塗られた貸自転車や電動バイクが停めてあり、ハンドルの中央に貼られたQRコードでロックを解除し目的地近くの自転車置き場まで乗って支払います。李さん夫婦も月額日本円約300円で乗り放題契約をしているので、自転車を買う必要が無いとのこと。成都是東京や大阪なみに地下鉄や電車が普及しているので、通勤時に本当に便利な貸自転車です。滞在中私たちも貸自転車で観光や買い物を楽しみました。しかし日本人の私たちにはチョイト慣れるまでドキドキです。なにしろ車も歩行者も間合いが近すぎるのです。交差点を歩いていると、横切る車は「もしかしてひく気なの!？」と思う位のスピードで近くまでくると、歩行者もベルを鳴らしても本当に近くなるまで避けません。まあ直ぐに慣れるので心配はいりません。

もし貴方が高級ブランド好きならココは買い物天国です。成都是周辺地域に住むお金持ちが買い物に訪れる人気スポットであり、李さんの住む近くには、世界中の高級ブランドが集まるお洒落なショッピングモールが三カ所もありました。それぞれが斬新かつ芸術的なオブジェで溢れて特色豊かで、買い物をしなくても観光としても十分に楽しめます。どこも夜まで今どきのファッションに身を包んだ若者たちがジェラートやクレープを頬張りながら歩き、家族連れなどで平日も賑わっていました。中でも印象的だったのが、最近都城でも時々目にする機会の増えた、ビルや建物に映像を映す「プロジェクションマッピング」です。高層のツインタワー丸ごとに映し出される可愛いパンダや美しい映像には度肝を抜かれ、夜の散策の楽しみの一つでした。

しかし食いしん坊の私が最も心惹かれたのはスーパーで売られている食材達と、外食でも誰かの家でも振る舞われる美味しい料理です。成都是中国の南に位置することもあり、果物も豊富かつ安価なのです。マンゴーやシャインマスカットなどに至っては日本の五分の一から十分の一位の値段ででしょうか。私は今回の

旅で初めて「龍眼」というライチに似た果物を食べましたが、癖になる美味しさです。李さんのお友達の家でご馳走になった、えんどう豆の葉や地元野菜たっぷりの羊鍋やドラゴンフルーツのサラダも絶品でした。

おっと、忘れる所でしたが、今回の旅の目的はマラソン大会でした。成都国際マラソンはフルマラソンとハーフマラソンのスタートタイム差が30分です。そのために途中までは約35000名が一斉に走っているにも関わらず、片側5車線の道路は広々としてアップダウンも少なく走りやすく、記録狙いのマラソンランナーにはお勧めです。えっ、私のタイムですか?秘密です。嬉しかったのは、マラソン前日のエントリー会場でもゴールして貰う完走賞でも、大きな袋にタップリ入ったお土産が貰えることです。素晴らしいメダルに、疲労回復のための湿布やテープに水やお菓子にカップ麺や鍋の元など、マラソンで疲れて2~3日買い物に行かなくても大丈夫です。



MIA会員 三浦孝道さんと一緒に

今回の旅で、滞在中ずっと李さんご夫婦には私たちが不自由なくマラソンを楽しみ観光できる様、友人までご協力いただき、本当にお世話になりました。おかげで、ますます成都在大好きになりました。中国は広いですが、また必ず来ます。

再見成都!!



李さん、三浦さんと



「ウィルミントン校：学園なのか、楽園なのか、少なくとも学びの場だった！」

～都城市アメリカ国際交流員 セスさんによるアメリカ紹介～

真っ暗。周りを見渡すと、部屋は人影すら見えないほどの光の加減に包まれ、あちこちで何冊ものノートがさばかれ始める。皆は自分のペンをしっかりと握りしめ、銀幕に目を当てる。

こちらの景色はまさに映画館…ではなく、実は我々の教室なのです。

米ドラマなどにたびたび登場する、いわゆる「アメリカン」な高校生活。実際には現実と少しズレがあるかもしれませんが、大学生活の方はどうでしょうか？

自分の経験だけをもとに語るしかありませんが、言われてみれば、確かにユニークだと自信を持っています。スケボーでの通学、まるで離島のようなキャンパスの暮らし、そして教室に変幻した映画館…こうした点から考えると、日本にはこういった大学を中々見かけないのではないのでしょうか。



うちのキャンパスでは、スケボーにつくウィールのゴロゴロと轆りと共に朝日を迎えに来ました。ただし、4個のウィールを持つ乗り物に限らず、二輪車、三輪車、そして一輪車に至るまで、人間の2本の足より車輪が走っている風景が広がっています。大雑把に言えば、「皆が乗る」。

でも、なぜそうなったのかと言えば、いくつか理由があります。たまの例外を除いてキャンパスが殆ど平らであること、常に近くの家から吹く涼風が毎日通ること、そして、生徒人口がのんびりとした生活を送りたい人たちの集まり場であること。それらが重なり、クルージング向けの楽園に進展していったのです。

私ならば、毎日乗る時間は約3時間半になっていましたが、そんなにスケボーを乗って地面を押すと、足の筋が危険な目に遭うこともありますね～（笑）（雨の日に体が泥んこになって絶望。。。）

日本の関西外国語大学に留学した際、ウィールの代わりにタイヤがついた「日本産チャリ」を購入し、それが我が相棒となり、市内のあちこちを回ることになりました。学内はそこまで大きくはない上、建築の前に街並みを考慮したような作りで、学校と街がほぼ一体化している印象を受けました。

その反面、うちのウィルミントン大学 (University of North Carolina at Wilmington) は、隔たった離島のような環境であり、日常生活に関しては出掛ける理由がほぼなし。学食が2カ所、ファストフード店が

多々、他の生活利便施設も十分に整っています。（例えば、無料で入れる映画館や小さな病院までも設置してくれていた）

そのため、「一年生の時、一切出掛けずにずっとキャンパスにいたんだよ」という話をよく耳にします。しかし、勘違いをしないでください。UNCWの学費は、アメリカ全土の大学と比較すると、平均以下となります。そんな大金を持っている場所ではありません。ただ、こういった文化が根付いているだけなのです。

学内の映画館ができた理由はもう一つあります。それは、講義室としても使用されるからです。映画学習・撮影はUNCWの最も名高いメジャーの専攻の一部であり、言を俟たなく撮影道具も学校側からたくさん提供されました。その撮影したプロジェクトを、映画鑑賞にぴったりの場所でクラスメイトと一緒に観られ、銀幕の役割はそれにとどまらず、ほとんどの講義では、講師からのプレゼンを映す役目も果たしています。世界中で「一番下手な映画」としてよく知られている「ザ・ルーム」というのを観て、クラスメイトたちと一緒に画面の方にスプーンを投げたりした時もありました。投げることはいたずらか何かではなく、

「映画鑑賞のアングラ文化」を体験する課題の一環でした。

乗り物文化や、外界から切り離されたようなキャンパス、映画学科のユニークな講義室の雰囲気などからして、アメリカの大学でも、かなり独特な大学生活を送っていたと私は思っております。

日本では今、進学の時節ですね。もしかすると、あなた自身や知り合いの中に進学を考えている方がいらっしゃるかもしれません。そんな方々に一言申し上げさせていただきます。

「ペンを握って、アメリカの大学への「志望書」を出してみたいかがでしょうか。」



UNCWのゆるキャラ：
サミー シーホークと学生さん



「春を告げる花」

～都城市モンゴル国際交流員 ヒシゲさんによるモンゴル紹介～

冬はマイナス40℃にもなるモンゴル高原も、4月になると各地で雪解け水が流れる音とともに、草や花の芽が出て、小鳥たちがさえずり始めます。これは厳しい冬の終わりを告げ、暖かい春が訪れる嬉しい知らせです。今回は、春の訪れを告げる花「ヤルグイ（オキナグサ）」を紹介したいと思います。

ヤルグイは、3月末から4月にかけて山に咲く春の花で、雪や砂嵐など不安定な季節の中で、いちばんに新芽を出します。他の植物に先駆けて咲くヤルグイは栄養豊



モンゴル高原に名残雪と共に咲くヤルグイ

富で、冬の間にやせた家畜が体力を取り戻すために食べます。家畜は2月から3月上旬にかけて干草を食べ

くし、飢えが最も厳しくなる時期を迎えます。

その時期にヤルグイが咲くことで、餌を見つけて生命を維持することが可能になります。

モンゴルには「春はヤルグイを食べると元気が出る」という言い伝えがあります。これは、ヤルグイで栄養をたっぷり蓄えた家畜の肉を食べることで、人間の免疫力が高まるとされているからです。つまり、「春の滋養になる」と言われ、食べる人も多いです。私も学生時代に体調を崩して、弱っていた時に、家族に勧められて、ヤルグイを食べた家畜の肉で作ったスープを飲んだことがあります。確かに、すぐに元気になっちゃいましたよ！まるで魔法みたいでした。

(笑)



編集部より

皆さん、こんにちは。今年も引き続き、よろしくお願いします。
暑いくらいに暖かい日が続いたかと思えば、朝晩冷え込んだりと、気温は安定しませんが、それでも満開の桜のもと、真新しいランドセルやスクールバッグを背負った子どもたちの姿を見かけると、春だなあ～と実感しますね。

市役所でも3月に諸先輩方がご卒業され、寂しい気持ちを感じたのもつかの間、容赦なく新年度を迎え、毎日が慌ただしく過ぎていきます。これも、春ならではの…

さて、我が家の春の訪れといえば…当然ながら、我が家の愛犬アニーちゃん！

寒い冬の朝はお布団にくるまって、いくら名前を呼んでも出てきませんでしたが、最近は「ふわあ～」っと伸びをしながらお布団から出てきて、床の上でブルブルブルっと体を震わせます。すると、アニーちゃんの体からたくさん毛が…。

春だもんね。換毛期だね、アニーちゃん

[亀谷]

皆さん、はじめまして！。

4月から国際化推進室に配属されました。

職場では、モンゴル、アメリカ、中国の国際交流員と机を並べていますが、私たち日本人と合わせて4つの国の人間と一緒に仕事をする空間にこれまで味わったことのない新鮮さを感じています。国際交流員と話していると、日本人以上に日本の文化を大事にしている、日本に在る間にできるだけ多くの日本文化に触れていきたいのを感じます。私達日本人が忘れてくれている日本の良さに改めて気づかれますね。

セス君に俳句習ってみようかな・・・アメリカ人にダメ出しされる日本人になりそう・・・

[富吉]

みなさんこんにちは！国際化推進室は4月から新体制でスタートしています♪

そして、新しい中国の国際交流員 謝均妮（しゃきんじ）さんが4月9日に着任されました(*^*)これから都城での生活を楽しんでいただけたら嬉しいですね★

私が今年度挑戦したいことは…息子と喧嘩する回数を減らすことです👉

[中瀬]

皆様、お元気ですか。中国・重慶から参りました国際交流員謝均妮（しゃきんじ）です～

10年前日本に一度来たことがありますが、今回と比べて色々な変化を感じます。まず、ロボットやQRコードを使うことが広がっていて、効率的だと思います。空港でチキン南蛮をiPadで注文し、ロボットちゃんが音楽を流しながら食べ物を運んできて、面白かったです。そして、国際決済が便利になったことも実感しました。都城のDAISOで生活用品を買った際、会計する時にWeChat Payの選択肢が出てきました。国際化が進んでいるこ

とを感じました。これからも、いろいろなお店や美しい景色を探しながら、都城を満喫したいと思います。

では、よろしくお願いいたします。

[謝（しゃ）]

初入選の壁を突破しちゃったぞ！！

宮崎日日新聞の「宮日文芸」の2名の選者に選抜され、妹尾題弘先生からも評価を頂きました。

1月22日に俳句の鑑賞と作句を始め、ついに3月24日に、「入選目標」を達成！！

うわああ、流石に今は嬉しい限ですね～

今回の達成感をじっくりと味わいながら、次のステップもしっかり考えておきます。

俳句の子たち、これからもよろしくお願いします。

[セス]

皆さん、サエンバエノ！

国際交流員として3年目の私ですが…先週、中国の国際交流員れいかさんを見送り、昨日はその後任の謝さんを迎えに行きました。この3年間で6人の国際交流員と共に楽しく仕事をしてきました。私たち国際交流員を温かく迎え入れ、いつも優しく見守ってくださる市民の皆さん、引き続きよろしくお願いいたします。

1年間一緒に過ごし、数え切れないほどの素敵な思い出を作ったれいかさんが、4月5日に帰国されました。れいかさんは同僚でありながら、山友、カフェ友、散歩友、旅行友、そして何よりも話し相手として、いつも素敵な笑顔で私を元気づけてくれました。近いうちに重慶まで、れいかさんに会いに行く予定です。その時は、皆さんに、たくさんのお土産話を持って帰ることができると思います。

[ヒシゲ]

令和7年度が始まりました。早速ですが、令和7年5月28日(水)午後2時から一般社団法人都城国際交流協会の定時総会を開催いたします。会員皆様の御出席をよろしくお願いいたします。今年度もよろしくお願いいたします。

[藤元]

我が家の食卓で大ヒット中なのが、ピリ辛のシラチャーソース。和食にまでチョイかけています。アメリカ料理教室のおかげでございますよ、セス。

[迫田]

4月といえば、卒業式、入学式の季節ですね。市内の高等学校を卒業したモンゴル人の知り合いが、都城が大好きになり、必ず戻って来てこちらに住みたいと言っていました。何を一番恋しく思いますか、と聞いたら、即答で「全てが！」とのことでした。

[ソヨ]